



第26号

編集発行

弘前学院大学 弘報委員会

印刷所 (有)小野印刷所

健康保持・増進

学長 吉岡 利忠



毎日のテレビ報道、雑誌記事、新聞紙上で、旅行、グルメ、健康体操や体重減量などに関する記事や報道がない日はありません。全て興味をそそるようなものばかりで知らず知らずのうちに視聴者は引き込まれていきます。多くのデータに基づいた根拠のある記事や報道は信用のおけるものでしょうが、「えっどうして?」ちよつとそうかな? いや、待

てよ、本当かな? という内容のものも少なくありません。なにしろ、最近ではデータを捏造しまことしやかに報道されているのですから、それらを見破るにはなかなか難しいことです。今回はこの中で健康体操あるいは運動ということについて述べてみましょう。前号の「弘学時報」の続きとしてお読み下さい。

有酸素運動という言葉を開いたことがあるでしょうか? 無酸素運動というのとはどうでしょう。有酸素運動というのは、空气中の酸素を沢山からだの中に取れ入れてエネルギーを作りながら運動を続けるというものです。その原料

は主としてブドウ糖、脂肪であり、酸素を使ってそれらを分解(燃焼)してエネルギーを生み出すのです。毎日の生活活動(歩行、仕事、家事など)や運動はこのエネルギーによるものです。酸素と原料を使って効率よくエネルギーを作っているのです。酸素をあまり使わないでエネルギーを作り運動することを無酸素運動といひ短時間の強い運動の場合です。この場合、乳酸などの代謝産物が出てきて疲労も蓄積してきます。健康保持・増進には運動が欠かせないと、最近、厚生労働省から「健康づくりのための運動指針」というのが出されました。また、生活習慣病有病者やその予備軍の減少という観点からメタボリックシンドローム(内臓

脂肪症候群)という概念を打ち出しました。あるいは略して「メタボ」。この言葉、流行語大賞まで頂き広く知られるようになりまして。この状態になると、将来、心臓病、脳血管障害、高血圧症などの生活習慣病になる確率が数倍も高くなるというのです。青森県民の平均寿命は常にワースト一位、二位です。健康寿命も同じです。毎日の身体運動がこのシンドロームから守る方法なのだと、科学的な結果に基づいて出したものなのです。それには、毎日続けられるような運動で、しかも一週間にどれくらい実行すればいいのかきちんと定められています。この詳細は別の機会に述べましょう。さて、ここで有酸素運動が登場します。例えばウォーキング、サイクリング、ジョギング、エアロビクス、ラジオ体操などからだをよく動かす運動です。そんなに疲れず20〜30分継続できる運動です。有酸素運動がメタボリックシンドロームの予防に力を発揮するのです。ということで、キャッ

学内就職セミナー開催

就職課長 福井 修

チフリーズ「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後に「クスリ」の最初に「運動」として行うことがお分かりでしょう。

一月十二日、学内就職セミナーが本学体育館にて開催されました。

就職セミナーとは、学生と企業が一堂に会し情報交換を行う合同企業説明会のことです。い、昨年度に引き続き開催されました。本学で開催する意義としては、①採用予定のある企業を本学に招くことで、直接就職希望の学生と面接をしてもらえ、②面接や



した。また、学生の参加は、就職活動にすでに入っている3年生87名とこれから就職活動するための経験となる2年生31名及び4年生(4年生参加可)の企業もあり、3名の計121名となりました。

言葉遣いの練習にもなり、コミュニケーションの取り方にも役立つ。③学生にとっては一度に複数の企業と直接に話が聞け、また業界研究、企業研究にも役立つ。④企業にとっては本学の学生を知る良い機会となる。⑤加えて、就職活動に対するモチベーションの高揚が図られるなど大変意義のあるものです。当日は全国から67社・82名の採用担当者の出席を頂きました。

参加した学生からは、「目指す企業の情報が得られた」「就職を具体的に意識できた」などの意見が寄せられ、又企業からも「是非また参加したい」などの意見が寄せられました。セミナー終了後、学内のライオホールにて企業の採用担当者の方と本学の教職員とで情報交換会が開催されました。教職員からも熱心に採用情報についての質問がなされ、会は午後6時過ぎに終了しました。今回は昨年より企業の参加が大幅に増え、また、学生の関心も高く、本セミナーは成功裡に終わったものと総括いたします。本セミナー開催のためにご尽力いただいた関係者の方々、ご出席頂いた企業の皆様、ご御礼申し上げます。

本多庸一とキリスト教(3)

学校法人弘前学院

理事長・学院長

阿保 邦弘



本多庸一の「私の回心」(英文演説から)本文の続きを紹介する。

「一八七〇年(明治三)、私は北日本の故郷の町で再び学習の生活に入ることができました。そのとき、友人の一人が横浜から好奇心で持ち帰った漢訳聖書を見ました。私も物好きな気持ちでそれを借り、

友人たちとこつそり創世記のはじめのところを読みました。それは、北日本にそれまで移入されたただ一冊の聖書でありました。その第一行目に「はじめに神天地を創り給へり」とありました。私はこの一句に打たれました。それはなんと崇高にして壮大なものでありました。しかし、聖書を研究する手段もないので、そのままに終わりました。

一八七〇年(明治三)私は横浜に遊学し、米宣教師団に接触する機会を得ました。そこでは、毎日ほかの勉強に入る前に聖書を学ばされました。最初から神の存在を信じる信仰を受け入れられました。私は

多くの点で賛同しかねるものがあり、キリスト教に反感を感じました。例えば、「この故郷に人はその父母を離れてその妻に会ひ、二人一体となるべし」(創世記二の二十四)には強い反感を抱きました。そして、これこそキリスト教が社会の秩序と平和を破る邪教であり、禁制も当然である証拠だと思いました。

しかし、私の反感を和らげ、忍耐強く考えさせる一つのことがありました。それは宣教師たちの私に対する親切心であり、また彼らの私にも生徒とわれらの国家のため熱誠かつ真剣に祈られたその祈りでありました。一方、国人は彼らを国外に追放する機会をうかがっていました。これは、私にとり私の同輩生徒にとつ

ても大問題でありました。一八七一年(明治四)国内でいま一つの事件が起こりました。封建制度が完全に廃止になったことでもあります。これによって武士階級は、数百年間保持してきた家柄に伴うすべての特権を失いました。大志、大望を抱いていた若い学生達は、突然途方にくれることになりました。厚い雲が行く手に垂れ込めたのです。

私はまったく意気消沈の体で帰郷のやむなきにいたりまして。寒い冬でありました。三週間もかかって五百マイル(一マイルは一・六キロメートル)の旅をし、病中で歩行ならず駕籠に寝たきりで帰って来ました。家族は貧しい村で落ち着かない生活をしていました。そこには汽船も汽車も人

力車さえありません。気落ちした若者はこの世が無常であり、人間がいかに弱くかつ微小な存在であるかを知らされました。このような境遇は私を謙虚ならしめ、罪深い人間の真の立場を知らされました。このとき、まったく奇妙なことになりました。かつて私が無関心に学んだ聖書の中の数多くの教訓や教義が心の中によみがえり、私の道徳心は鋭敏となり、私の理想は高揚しました。

私が痛感したことは、自分が罪人であり、神と人に対して大きな道徳的責任を持ち、また自分自身を救うことができないということでありました。私の精神に激しい葛藤が起りました。私の周り五百マイル以内にキリスト教徒の友人が一人もおらず、相談す

ることもできませんでした。そこで、私は横浜に急行しました。厳冬のことで東京まで二十四日を要しました。横浜についたのは、一八七二年(明治五)二月末のことでした。そこで見出したのは、かつてキリスト教に対して無関心でむしろ反感さえ持っていた同輩の学生たちが、いまや洗礼を受けようとしていることでした。

これには私も驚き、自己の救いのためより強い意志を持って真理を求めよう勇気づけられました。ここで再び聖書の言葉が私に働きかけ、ひたむきな悔い改めと私の代わり死んだキリストへの信頼を呼びかけました。私は罪の告白をし、キリストにわが身をゆだねました。

私がキリスト教を信じるにいたった強い動機は、私の祖国のためということにある。遅れているのを知り、われわれは祖国を何とかして先進諸国と同じ水準にまで引き上げたいものだと思望しました。(中略)私は以来人生のいろんな段階を経験しました。私の働きは主に教育と伝道にあり、二年間の議長も務めました。そのように政界と関係しながら、道徳的にはきわめて低劣ないわゆる政治家たちを明らかにするのたいてい非難を免れないという、辛い経験をしました。(以下次号)

弘前学院大学 卒業証書授与式 文学部 第三十三回 社会福祉学部 第五回 大学院社会福祉学研究所 修士課程 第三回 大学院文学研究科修士課程 第一回

二〇〇六年度

弘前学院大学 卒業証書授与式

文学部 第三十三回
社会福祉学部 第五回
大学院社会福祉学研究所 修士課程 第三回
大学院文学研究科修士課程 第一回

日時 二〇〇七年三月十七日(土) 午前十時

場所 弘前学院大学体育館

卒業式 二〇〇七年三月十六日(金) 午前十時

場所 礼拝堂

*礼拝後、体育館に於いて卒業式予行を行う。

吉岡学長の助言による「東京水天宮 助産師育成支援制度」の支援金授与

安産・子育ての神様として有名な「水天宮」(東京日本橋)の真木千明宮司から、2年前、近くに居住されていた吉岡利忠学長に、安心して子供を産み育てられる環境作りについて、ご相談され、実現した奨学金制度である。

吉岡学長や路加国際病院の日野原重明理事長などで組織する選考委員会で昨春初めて12名の学生への支援金授与が決定している。

今年の日本産婦人科医会への調査によると、出産を扱う産科施設の75%で助産師が不足しているという。

看護師不足とともに、医療機関での人材確保が急務となっている現状への一つの手助けとなるであろう。

中国語訳『殷墟卜辞研究』の刊行

文学部教授 顧 偉良

元弘前大学名誉教授、島邦男博士の論著『殷墟卜辞研究』(一九五八年初版)が本学文学部の顧偉良教授との共訳(共訳者：濮茅左、上海博物館教授)で、二〇〇六年八月、上海古籍出版社より刊行(A4判、全二冊)。名著の誉れ高いこの本は、中国の陳夢家の『殷墟卜辞綜述』(一九五六年)と共に、今日に於いても殷の歴史、甲骨文字の研究に於ける最も重要な論著である。近年、上海古籍出版社では『海外中国学叢書』が刊行され、中国古代の思想、哲学、歴史などを中心とした学術的価値の高い、海外中国学の研究論著の翻訳出版が行われている。中国語訳『殷墟卜辞研究』が該当する叢書として選ばれた。目下、中国では『国際中国学』(Sinology)の研究が進んでおり、今回の刊行により島邦男博士の研究成果が現代中国の学界で脚光を浴びるに違いない。訳書は三部構成である。I 王国維の弟

新刊本紹介

「教育と研究」 宗教主任 中澤 實郎

過日、卒業以来数十年ぶりに恩師にお会いした。「君は今も、バルトを読んでいますか」と、挨拶がわりに言われた。「研究会」の顧問をされておられた先生である。後輩で、母校の学長となつていた友人に久しぶりに会った時、「中澤さんは学生時代にバルトを読んでいたね」と言われた。修士論文がカール・バルトだったからである。

弘前学院大学に勤めて十三年になる。大学の有利さは、自分の研究を発表する場所(紀要)



とそれを講義に活用できることであろう。三年前に『バルトの「和解論」における契約、罪、洗礼』を、そしてこの度、『キリスト教社会福祉の神学』を刊行することができた。内容は、カール・バルトを基本とした講義録である。(陸奥新報)三月二十八日付に書評が載せられている。

山とゴジラ

看護学部 仁木 雪子

弘前に住んで早一年が経とうとしています。弘前での生活は、東の八甲田連峰、西の岩木山に挨拶をすることから一日が始まります。幼い頃から遠く山を眺めて育った私にとつて、「山が見えること」が心の安定につながっているように思えてなりません。高校までは、三八上北地方に住んでいたため八甲田連峰を眺めながら過ごし、東京6年間は渋谷区広尾(高台でした)から遠くに富士山を眺めながら過ごしました。大阪での6年間は、神戸の六甲山や奈良の生駒山を眺めるために宿舎の屋上に登り、心沈めたものでした。その後、八戸市にもどり7年間、またしても八甲田連峰を眺める素敵な生活をしてから秋田市に移り住みました。秋田市は、東側に太平山を眺めることができます。「ああ、素敵な山があった!」と安心したのもつかの間、これまで太陽が海から昇り山に沈んでいく光景ばかり眺めてい



たので、秋田では朝日が登る山を初めて見ることにになり、方角がわからず落ち着かない数ヶ月を過ごしました。そして、10年がたち、弘前へ。弘前は、西海岸(?)に面しているとはいえず、海の手前に岩木山がそびえ立っています。朝日を迎えた夕日、夕日に燃える岩木山には実に惚れ惚れ致します。

『地域学 第五巻』 必見です!

地域相親文化研究所長 笹森 建英

先日、フォーラム「岩木山信仰」に私が関わって驚いたの流布していたことでした。「岩木山に死んだ祖先の霊が籠る、岩木山神社では排仏毀釈が積極的に行われた、修験(山伏)が信仰や登拝行事(お山参詣)を管理していた」等。安寿にしても、森陽外が書いた「安寿と厨子王丸」の話だと思われていたことでした。地元の研究者の思い込みで書いた書物が広く読まれ、県外の研究者は仕方ないにしても、地元でも信じられていたことでした。だから、研究会に出さない、『地域学』を読んで下さいと言えは、

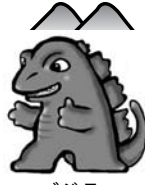
作務的だと思われれるでしょうが、知識は正しくもってほしいたいものです。『地域学 第五巻』必見です!五巻には「岩木山信仰フォーラム」の書き起こし文が掲載されています。安寿姫は岩木山に鎮まられている神様の一人です。津軽のイタコはくぐもった暗い声、素朴な旋律で語ります。「母は安寿を砂に生き埋めにし、父は出自の不確かな赤児であるからと、板にくぐりつけ流してしまいました。丹後の国で難難辛苦をなめた後に、津軽にたどり着き、岩木山の神様になったのです。」イタコは次の言葉で物語を語めくりまします。「神様でも苦勞している

看護学部のリカレント教育

看護学部教授 木村 紀美

昨年の「第二十二号弘学時報」でリカレント教育についてその意義、目的を神郡看護学部長が述べておられました。第二回は、第一回に参加された現職の看護師さん方からのご意見を参考にしながら、昨年十月に行いました。その内容を要約すると、

- 一、緩和ケアの現状と方向性
- 二、ドメステック・バイオレンスと看護の役割-被害者に対して看護師として関わる役割は大きく、適切な援助を行う方向性を概観する。
- 三、緩和ケアの現状と方向性
- 四、新しい診療報酬体系とこれからの看護-診療報酬改定と看護管理-最近の医療情報、診療報酬の流れに目を向けながら、今後病院はどう変わっていくのか、医療・看護の進むべき方向を一緒に考える。
- 五、精神科の臨床における看護師の思考と行動-クライエントの攻撃に対する看護対応を通して-今回はクライエントからの攻撃に対して精神看護師がどのように対処しているのかに焦点をあてながら、一緒にその思考と行動を考える。



山が身近にある理由

に、皆さんに笑われるような理由があります。それは、「たとえ怪獣ゴジラがやってくるでも隠れる場所があるから」です。小学時代にみたゴジラの映画はとて衝撃的で今でもトラウマのようになっていました。昨年、初めて五所川原の立ちねぶたを見たときも、ビルの上から顔を出して歩く姿にゴジラ登場を想像し緊張したくらい強烈な存在です。いつか、岩木山近隣にゴジラが出没したら八甲田に、八甲田に出没したら岩木山に隠れようと時々考えてしまう仁木でした。



めにはドメステック・バイオレンスについて理解を深め考えてみる。

三、あなたの心はまがっている? - 心電図実習-標準肢導出という簡単な方法で受講者自身の心電図を記録し、作図をして心臓の傾きを知る。

四、新しい診療報酬体系とこれからの看護-診療報酬改定と看護管理-最近の医療情報、診療報酬の流れに目を向けながら、今後病院はどう変わっていくのか、医療・看護の進むべき方向を一緒に考える。

五、精神科の臨床における看護師の思考と行動-クライエントの攻撃に対する看護対応を通して-今回はクライエントからの攻撃に対して精神看護師がどのように対処しているのかに焦点をあてながら、一緒にその思考と行動を考える。

二〇〇七(平成十九)年度の新規オープンキャンパス 弘学祭との併催で開催!

例年、七月と九月に開催しているオープンキャンパスを、来年度から年三回実施することになり、新規の開催日は、「弘学祭」と併催で、平成十九年十月七日(日)を予定しています。これまでのプログラムを大幅に変更し、「卒業生からのお話」をメインに計画を進めています。職場に勤務されている卒業生(文学部の英語・英米文学科、日本語・日本文学各一名、社会福祉学部一名)、看護学部は在学生が、高校生の知りた「将来像について」お話をいたします。また、午後は「在学生との懇談-教員との進学相談コーナー」を実施します。

そして、参加者には、食事券を配り、弘学祭で本学生が販売する「津軽そば、うどん、おでん、焼き鳥等々」を自由に食べてもらいます。

本学では初めて、弘学祭とオープンキャンパスとのジョイント企画になります。来年度の学祭実行委員会の皆さんは、このことを念頭にいられていると計画を進めてください。(文責 入試センター長 荒木閑)



軽音部

社会福祉学部2年 成田 展大

軽音部はサークルになって一年目を迎えたサークルです。現在二年生中心で活動していて、みんな音楽が大好きです。でも、技術的には発展途上です。活動内容は、週三回の414教室を使い各自で自己課題の練習や合同練習をしていて主に練習している曲は、コブクロ、ゆず、スピッツなどのメジャーな曲を

サークル活動

卓球部

社会福祉学部2年 蒔苗 太郎

私達卓球部は三年生二名、二年生三名、一年生二名計七名で構成されています。活動は、毎週土曜日の午後一時から五時まで練習しています。人数が少ないことと部員の学部が看護、社会福祉、文学部とバラバラなため、なかなか都合が合わず皆が揃うことはまれですが、毎週少人数でも活動しています。

スポーツ大会の歓喜

学友会執行委員長 佐藤 泰子

二〇〇六年十一月、秋の肌寒さが身にしみてくる頃、そのスポーツ大会は行われました。外気とは異なり、体育館の中は参加する学生の熱気と声援であふれています。実施された競技はバドミントン、卓球、バスケットボール、ドッジボール、そしてバレーボールです。大会日が近づくと、学生たちが練習のために足しげく体育館に通う姿をよく目にしました。学生のみなさんは、共にキャンパスを



つが、駅前とかで、やりたいと思う今日この頃です。今サークルで使用している楽器は、キーボード、エレキとアコースティックギターとドラム、ベースがあります。ドラム以外は全部個人の私物になっています。軽音部ができたきっかけは、私が前に所属していた、サークルの先輩が趣味でギターを部室で弾いていたのですが、音楽サークルが無いので堂々と音を出して弾けない状態だったのと、音楽が好きで人達ともつと

面から大会出場を見送りました。来年度は新入部員を交えて大会に出場できるように頑張っていきたいと思っています。

また、個人ではナイター大会や一般の大会で団体戦には出場せず個人戦やダブルスに



交流を持ちたい等の理由から先輩が、同好会を立ち上げ私と友人数名が同好会に入り。そして、昨年度サークル申請が通りサークルとなりました。皆さんも音楽を通じて人との出会いを深めて見ませんか(笑)。

ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ

社会福祉学部講師 船木 幸弘

社会福祉学部の学生が目指す専門職は、知識だけでは援助関係を十分に形成することはできないことから、援助効果を高めるものとするために、専門的な対人関係を形成する技術を獲得しなければならぬ。援助関係は、信頼関係の上に成り立ち、ソーシャル・ケース・ワークを真に専門的なサービスに発展させる人間関係の一部である。人間関係を広く捉え、人と人の間で営まれるさまざまな関係は、人間に幸福をもたらす主要な、唯一の源泉であり、社会福祉実践は、その関わり方で何らかの福をもたらすことが期待される。狭義な人間関係であるともいえる。



授業紹介

異文化理解A・B

英語・英米文学科 助教 教授 タッド・J・レオナルド

今日の国際社会において異文化を理解することはとても重要な要素になって来ています。外国を旅したり、そこに住んだりする機会が近年ますます増え、それに伴い異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションの機会も増えているからです。主に2年生を対象としたこの講義では、様々な活動を通じて異なる文化や考え方を体験し、理解することを目的としています。主としてアメリカ文化と日本文化との類似点や相違点を取り扱いますが、多くの講義で異文化をより深く探求し、カルチャーショック、文化的アイデンティティ、文化的姿勢などについて学ぶ機会を提供します。教科書には三つのテーマが取り扱われています。食物、祭祀、そして休日に関わる伝統

回このように執行部の一員として大会の運営に参加し、それを見てみると、多くの学生の笑顔を見ることができたことへの喜びで胸があふれ、また同時にその笑顔のために共に力を尽くしてくれた執行部メンバーへの感謝が込み上げてきました。この場を借りて、参加した学生のみなさんと執行部メンバー全員に「ありがとう」を伝えたいと思います。

卒業生からのメッセージ

就職活動をする後輩へ

二〇〇四年三月 日本文学科卒(陸奥新報社勤務) 山内 円



就職活動は水河期。絶対

就職したいと三年生の秋から業種を問わず活動した。当初、県内希望だったが、採用人数が若干名にもかかわらず、受験者は何十人もいて、厳しさを実感し、途中秋田と岩手も視野に入れた。交通費など出費が多く、

面接は苦手な理系の問題が少なく漢字や諺、政治経済だった。面接は落ち着いていられた。今思えば、日本文学科の講義で鍛えていただいた文系の試験だったこと、何度か面接を受けたため慣れて平常心でいられたこ

「自分が他者のコミュニケーションを観察する」「グループプロセスと成長」「自分が他者に与える影響」「他者から自分が受けている影響」「全員合意」「自分が他者どのように見えているか」「他者から自分はどう見られているか」などから「さまざまに気づく」のである。そして、これらについて構造化された実習(エクスササイズ)を体験し、その体験ごとに「ふりかえり」、その内容から学ぶ。課題達成の結果(コンテンツ)は、

奨学金併用貸与について

従来、本学では、各種の奨学金は、広く多くの学生に行き渡るようにということから、併用貸与を行っていませんでした。

しかし、二〇〇六(平成十八)年度、父母と教職員会の総会において、併用貸与を行って欲しいとの保護者の方からの要望がありました。このことを、大学関係者が、真剣に検討した結果、二〇〇七(平成十九)年度より、奨学金併用貸与を実施することになりました。

なお、詳細については、お気軽に学生課へお尋ね下さい。



留学生生活を振り返って

英語・英米文学科 2年 高橋 絢佳



ルームメイトと仲よく

UW-Lで学んだ4ヶ月間は、私にとってとても貴重な体験になりました。

全米でも上位10番以内に常にランクインされているというUW-L、そして定められている各クラスの合格点を取ることができなければ、そのクラスをパスすることが出来ないという、しっかりとした基準を設けているUW-LのESL制度は、数あるアメリカの大学の中でも珍しく、それは時に厳しいこともあります。そんな高い教育の下、たくさんの素晴らしい先生方、素敵なクラスメイトと共に学べたことは、姉妹校としての関係を持っている弘前学院大の生徒でなければ容易にはかなわなかったことで、3ヵ月半という短い期間でしたがたくさんのことを学ぶことが出来ました。

一番嬉しかったのはライティング文法のクラスで Outstanding student award という賞を頂いたことです。日本とは異なる文章の書き方に慣れるまで戸惑い、1番苦労したクラスだっただけにこの賞を頂いたときはとても驚いたと同時に、自分自身に対する自信にもなりました。

また、私は昨年夏オープンしたばかりの新築の寮に、一期生として入居することが出来、キッチン・リビング・バス・トイレは共同ですが個人部屋のある部屋で、3人のアメリカ人のルームメイトと共に学校生活を送りました。すでに去年から一緒に寮生活を送っているというルームメイトの仲にうまく入っていき初めは多少不安もありましたが、すぐに打ち解け、週末一緒に外出したり、連休に彼女たちの実家に遊びに行ったこともありました。4人の中に知らないことはないと言うくらい色々な話をし、一緒に数え切れない程の思い出を作りました。私が寮を出る日、「このまま私たちのルームメイトでいてよ、絢佳は今までで最高のルームメイトだった」と言ってくれた言葉に、胸が一杯になり、そして、「絢佳と一緒に過ごせたお陰で、今まで気付いていなかったこと、見えてなかった世界が見えるようになった。ありがとう。」という彼女達からのメッセージに、留学することの意義を感じました。

さまざまな国から来ている留学生、アメリカ人の友達と色々な話をすることで、今の世界の現状をととても身近に、そしてさまざまな角度から感じる事が出来ました。また日本という国を、そして自分自身をもう一度見つめ直すとても良い機会になりました。



クラスメイトと教室で

短い期間ではありましたが、ここUW-Lでなければ出来なかった、決して忘れられない皆さんの貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しています。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださったタッド先生を始め、弘前学院大学の皆様方、本当にありがとうございました。

スペシャルオリンピックス 応援トーチラン

トーチラン実行委員 (社会福祉学部2年) 信平 玲奈

スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的発達障がいのある人たち(アスリート)に、日常的なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。この活動は青森県でも行われており、弘前では本学と弘前大学の学生が主体的にボランティア参加しています。

昨年、夏季ナショナルゲームが熊本で開催されました。日本全国のSOに関わる人々が日頃の成果を競い合い、喜びを共にする、4年に1度開催される、オリンピック形式の夏季種目(陸上競技、水泳、競技等)のスポーツ大会です。そこで、「2006年第4回ス



トーチ(聖火)が本学のキャンパスにゴール

ペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・熊本にむけたトーチラン(聖火リレー)が日本各地で行われることになり、弘前でもその火を繋ぐため「応援トーチラン」を開催しました。応援トーチランは、青森県内の多くの人の「スペシャルオリンピックス」及び、ナショナルゲーム

を知ってもらい、参加するアスリートを盛大に送り出すことを目的としていました。大勢で1つのイベントを成功させることは、アスリート・ファミリー・ボランティア、そして地域が、密接に関わっていることを再認識でき、関係者の一体感を感じられることに繋がります。私達の「応援トーチラン」は、障がいのある人とふれあ



参加者全員で「ハイ、チーズ」

い、心のバリアフリー化を図り、ボランティア精神を高めることを目指しました。昨年10月15日に行われたこのトーチランは、トーチランナー82名・伴走者262名・ボランティア約60名という大規模なイベントとなりました。また、情報センターをスタートし、土手町参画センター前広場、徒橋付近広場、東北女子短大

↓駅前広場↓松森町ふれあい広場↓サックス弘前富田三丁目店↓弘前大学↓弘前温清園↓サックス弘前西弘店↓そしてゴールとなる弘前学院大学まで約5800メートルの道程を「We are the トーチラン」の掛け声とランナー達の笑顔

とともに火を繋ぎながら走りました。このトーチランを開催するため、学生達が実行委員会を立ち上げ、事務局・会計・広報・人事・総務中継・総務庶務・式典という委員会に分かれ31人の実行委員が企画からイベント運営に携わりました。私たち学生の他にもSON・青森の事務局をはじめ、ファミリー、各施設、一般企業団体、弘前市等の多くの人々に協力してもらいました。

私は広報委員だったため、地域にSOやトーチランを広める仕事を担っていたのですが、学内のイベントではないため、学生という立場を言い訳出来ないという意識を意図するようにしていました。しかし、メディアとのやり取りや企業に対する対応が十分ではなかったし、学外でのそうした働きかけの難しさを学びました。それと同時にSOやトーチランに興味を

「社会福祉実習Ⅰ」体験報告

【児童養護施設】

3年 赤羽 落子

8月1日から弘前市内の児童養護施設で4週間女子(小学1年~高校3年)に配属された。児童とは、様々な遊びを通して自分なりに積極的な関わりを持つことで、輪の中に入る事が出来た。毎日繰り返される児童同士のトラブルや関係づくりの中では、本人同士で解決させる事、児童の話をよく聞くことの大切さを学んだ。また、日々の児童との関わりからは、自分の感情コントロールなどの未熟さと児童が職員への行動をよく見ている事にも気づき、丁寧な言動を心掛けた。最終日には、児童から、「こんなに話ができ



実習中の食事介助

【特別養護老人ホーム】

3年 狩守 和幸

8月1日から八戸市にある特別養護老人ホームに4週間配属された。実習の始めは積極的に動く事が出来なかったが、日がたつにつれてケアプラン作成のための情報収集などコミュニケーションができるようになるに、徐々に積極的になるようになった。そこで私は、認知症に対する理解・コミュニケーションの重要性・多職種協働の大切さ・生活相談員になる為に必要な事(身に付けなければならないこと)などを学んだ。特に、相談員が行っている仕事(相談業務、入退園の手続き、代理業務など)を観察し、専門職についての理解を深めることができた。

この社会福祉実習では、施設の全職員が同じ姿勢で児童と向き合うことやその対応の難しさを感じながらも、それらの方法について現場から学ぶことも良い機会となった。特に、実習を通して日常業務中であるにも関わらず、職員の方から対応方法に関する沢山のアドバイスをいただいたことは、自分の将来にとって貴重なものになったと思う。持ってくれたり、協力してもらった時は、輪が広がった気がしました。私だけではなく、他の実行委員もまた、トーチランを成功させるために何ヶ月にも亘って一人一人が自ら考え行動し、何度も話し合い、時にはぶつかりあったりしました。しかし一つ一つ積み上げていくように、協力し合えた実感があります。このトーチラン実行委員の数の数が、熊本で行われた

た。また、職場内の職員研修にも参加させてもらい、自分の学習課題としていた認知症についての理解を深めることができた。専門職の仕事や技術をその実際から学べ、特に利用者の笑顔は今でも思い浮かび忘れる事ができない。今回の実習は、将来高齢者分野で働きたいと考えている自分にとって、とても刺激のある体験だったと思う。

これからは、ご指導いただいた相談員の方のような専門職を目指して事後学習を続けていきたい。

【ろうあ児施設】

3年 田中 裕未

「手話」という言語に出会ったことがきっかけに、私はろうあ者(児)の福祉に関心を持つていた。室蘭市にあるろうあ児施設の10月1日から4週間の実習では、利用者がサービスを利用するまでの流れや、施設の現状と専門職の役割とその実際から援助技術を学ぶことを目的とした。

実習は、見知らぬ土地(室蘭市)での慣れない環境に戸惑いも多かったが、施設の日常生活に慣れると、利用者との関わり方の時間を上手に持つていくように、その場で取るべき行動の判断も少しずつ出来るようになっていった。また、実習訪問指導では、目的意識を持つように指導があり、自分の実習目的を改めて再認識することができた。その後、実習目的を再認識したことによって、日々起こる様々な出来事や変化を敏感に捉えることができ、実のある実習になった。今回の実習では、現場の雰囲気やボランティア活動などで知る経験もできると思ったので、社会に出るまでに、もっと幅広くボランティア活動を体験し援助技術を高めたいと思う。